

研究課題	特別支援学校教師の自立活動の指導に関わる成長過程の検討 - 初期プロセスに着目して -				
氏名	内海 友加利	所属	総合教育科学系 特別支援科学講座	職名	講師
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> 受講済の場合はチェックをすること					
<b>【研究成果の概要】</b> （文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）					
<p>○問題の所在と目的</p> <p>特別支援学校は、特別支援教育推進の牽引役として専門性の確保が求められており、とりわけ、自立活動の指導に関する専門性は重要な位置づけといえる。特別支援学校教師のキャリア・ヒストリーを分析した内海・安藤(2020)では、初任期に自身の指導に対する困難等に向き合い、自主的な研鑽に取り組んだことを明らかにし、初任期の取り組みがその後の教職生活に影響を与える可能性を示唆した。</p> <p>以上を踏まえて本研究では、特別支援学校教師の自立活動の指導に関する専門性向上について、教師の成長過程の初期に着目した。仮定したモデルに基づき、初任期における成長過程の特徴を析出することを目的とした。なお、本研究は科研費研究スタート支援「特別支援学校若手教師の専門性向上に資する自立活動に係る自主研修」(研究代表者：内海友加利)の発展的な研究として実施した。</p>					
<p>○研究の方法および結果の概要</p> <p>特別支援学校の教職経験年数が4年以上であり、自立活動に関する教育実践および研究の成果公表を行うなど、自立活動の専門性向上に向けて自主的に取り組む教師2名に対してインタビュー調査を実施した。インタビューはライフヒストリー研究に基づいて実施した。質問内容として、教師のプロフィール(教職経験年数、保有免許状等)、教師になるまで、初任期から現在に至るまでの専門性向上に関わる意識や取り組み等についての語りを得た。インタビューデータに基づいて逐語録を作成し、初任期の成長過程を分析した。</p> <p>教師の成長過程には、担当する子どもとの出会い(任・安藤, 2012)など転機となる「契機」、研修会に参加する(一木・安藤, 2011)など契機に基づいて教師がとった方略である「行動」、先輩教師(一木・安藤, 2011)など契機や行動に関係の深い人物・モノ(理論や思考等を含む)・場所である「資源」が関係しあうことを整理した。また、成長のメカニズムには、「契機」を自覚し模索した結果「行動」を起こすという過程があり、「契機」と「行動」には相互に関係するものとして「資源」が位置づく。さらに、「行動」に対する評価とその高度化をもって、さらなる成長につながるサイクルが想定できる。</p> <p>上述の成長過程モデルを踏まえて対象教師の語りを分析したところ、初任期に担当した子どもとの関わりを教師の成長の契機として挙げ、同僚教師等の影響を受け、自主的な研修機会に参画していたことが析出された。このことから、仮定した成長過程モデルが支持されたと考えられる。しかしながら、本研究では事例的な検討にとどまっており、本研究の対象教師とは背景の異なる教師の成長過程を引き続き分析する必要があると考える。</p>					
<b>【研究成果発表方法】</b>					
研究成果の一部として、「内海友加利(2023) 肢体不自由特別支援学校教師の初任期における成長過程の検討 自立活動の指導における専門性に着目して .東京学芸大学論叢, 1, 33-42.」をまとめた。また、今後、日本特殊教育学会年次大会等において成果を報告する予定である。					

発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入すること。

本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。